

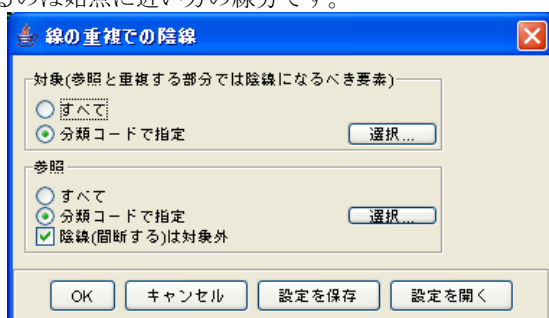
拡張 DM エディタ バージョン 2.21 更新記録

2008/11/30
有限会社ジオ・コーチ・システムズ
<http://www.geocoach.co.jp/>
info@geocoach.co.jp

1. 線の重複での陰線

新メニュー[チェック]-[線の重複での陰線]を追加しました。

重複している部分では陰線(間断区分=1)になっているべき要素が陰線(間断区分=0)でないケースを検出します。対象で指定された分類コードの面(E1)線(E2)で間断区分=0の要素について、参照要素との重複を調べます。対象の線分が参照の線分と重複している場合、対象の線分をリストアップします。ひとつの対象要素の複数の線分が重複していても、リストアップするのは始点に近い方の線分です。



【陰線(間断する)は対象外】OFFの場合、参照する面・線のうち、間断区分が1以上の要素も参照します。ONの場合、間断区分=0の要素のみを参照します。

2. チェックリスト保存

[ファイル]-[チェックリスト保存]でCSVとDXFについて、図郭別に分けて保存できるようにしました。また、CSVの行番号と対応がとれるように、DXFのテキストエンティティには[チェックリスト]に表示している文字列の前に、1からの通し番号を付けるようにしました。

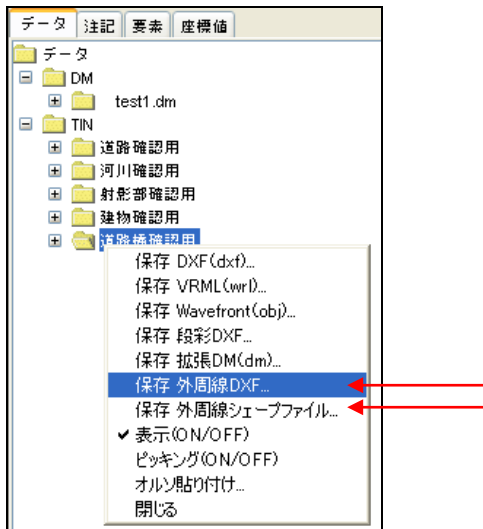
CSVとDXFの保存の際に、フォルダが選択された場合、リストの項目を図郭別に分けてCSVあるいはDXFファイルを保存します。この場合、CSV、DXFファイル名はDMデータファイル名と同じになります。要素をリストアップしている場合、その要素が属するDMデータファイルが特定できますが、端点間の隙間の検出のように異なるDMデータファイルに属する要素についての項目は、隙間の中間点など座標でDMデータファイルに属するかを判定し、対応するCSVあるいはDXFファイルを決めます。対応するDMデータファイルが特定できない場合、「範囲外.csv」「範囲外.dxf」ファイルを保存します。

3. チェックメニューの設定保存

メニュー[チェック]の各ダイアログにボタン「設定を保存」と「設定を開く」を追加しました。「設定を保存」は、設定内容を任意のCSVファイルに記録しておくことができます。ボタン「設定を開く」で開けば、その設定内容に変更します。

4. ポリゴンの外周線保存

メニュー[一括処理]-[等高線間断区分]で確認用に表示しているTINについて、TINを囲む外周線および穴の線をDXFおよびポリゴンのシェープファイルとして保存できます。データパネルのそれぞれの項目について、ポップアップメニューに「保存 外周線DXF」と「保存 外周線シェープファイル」を表示します。

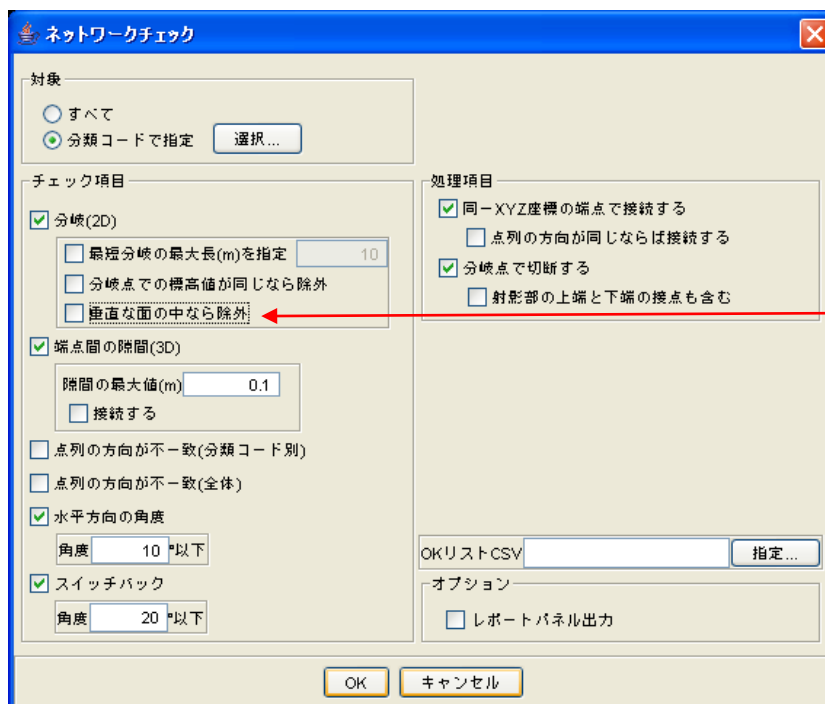


DXF ファイルにはレイヤ「0」のポリラインエンティティを保存します。

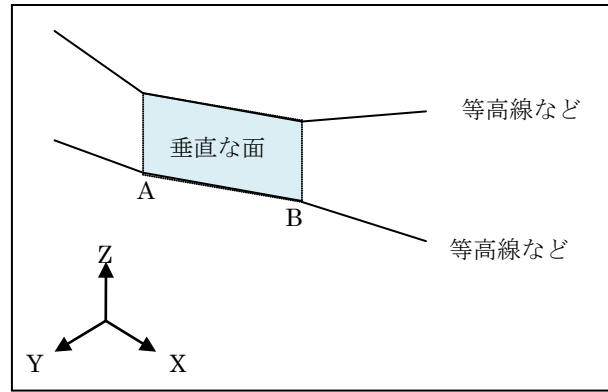
シェープファイルにはポリゴンを保存します。道路については、市街地などでは街区のブロックがポリゴンの内周になります。建物に中庭線があれば、これもポリゴンの内周になります。シェープファイルの DBF ファイルにはひとつの属性を空白で記録しています。

5. ネットワークチェック

[チェック]-[ネットワークチェック]にオプション「垂直な面の中なら除外」を追加しました。垂直な法面などを通る等高線について、交差としてリストアップしていましたが、このオプションで除外できます。



【垂直な面の中なら除外】垂直な法面を通る等高線のように、XY 座標では重なり Z 値が異なる垂直な面を想定し、分岐点がある場合、リストアップしません。下図で、XY 面では点 A と B で等高線は分岐していますが、A と B は等高線がなす垂直な面に接しているため、リストアップしません。



垂直な面はすべての3次元の面(E1)と線(E2)から構成します。垂直な面は、線分がXY面で重なり、Z値が異なることが条件です。XY面で少しだけずれていたり、Z値が同じ場合は垂直な面が構成できません。